

健康登山25:自然歩道12 (月ヶ瀬口駅～笠置寺～柳生～笠置駅)

コース	月ヶ瀬口駅 3.7km/53 1.9km/37 鷹橋 3.3km/53	高山ダム 4.3km/60 笠置橋 1.1km/45 芳徳禅寺 1.7km/22	恋志谷神社 3.9km/73 周遊0.7km/16 鹿鷲橋 3.1km/40	甕穴群 1.5km/28 笠置寺 笠置駅	鹿
水平距離	25.2km		断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km		
水平換算距離	21.4km				
累計高低差	登り800m、下り870m				
標準歩行時間	7:08				
実績歩行時間	6:55				



山行報告

山行日 2007・6・07 (木) 天候 晴れ 参加者 10名

月ヶ瀬口駅9:50 高山ダム10:56 恋志谷神社11:55~12:31 布目川甕穴群13:30
 行動 笠置橋14:04 笠置寺14:40~15:15 鹿鷲橋15:40 旧柳生家老屋敷16:11 一刀石
 16:36 芳徳禅寺16:48 鹿鷲橋17:10 笠置駅17:45 京都駅へ

記録

東海自然歩道は月ヶ瀬口から笠置、柳生を経て奈良に至るが、鉄道の駅は月ヶ瀬口駅、笠置駅、奈良駅のみである。これを2回に分けて歩こうと思っている。今回は全体のバランスを考えて笠置寺と柳生の観光を済ませて笠置駅へ戻ることにした。
 したがって次回は笠置駅から柳生に入り柳生街道、滝坂道を経て奈良へ向かうことになる。
 今回は歩行距離25km、歩行時間7時間とやや長めのコースとなった。
 歩き始めて数分、鷹橋を渡るとグリーンパル南山城まで1.2kmの近道の案内があるが、私達は2.7kmの東海自然歩道を歩くことにした。高台には茶畑が広がり、その向こうには先月登った三国塚の山並みが見えた。50分歩いて昨年お世話になったグリーンパル南山城で休憩した。その後、高山ダム、夢絃峡、弓ヶ淵を見ながら歩き、大河原の恋志谷神社で昼食をした。
 午後は布目川甕穴群を見た後、一気に笠置寺まで登った。笠置寺では正月堂、磨崖仏、胎内くぐりなどの修行場めぐりをし、貝吹岩で記念撮影をした。
 ここから柳生へ向かう自然歩道周辺には紫陽花の群落があるがまだ咲いていなかった。
 峠を越えると突然左前方に笠置ゴルフ場が現れ、舗装道路となる。下りきったところが打滝川にかかる鹿鷲(かさぎ)橋で、この辺りが京都と奈良の境界でここから柳生に入る。
 柳生では最初に阿対(あたや)の石仏が迎えてくれる。川沿いに進み十兵衛杉、旧柳生家老屋敷、天の石立神社、一刀石、芳徳禅寺などを訪ねた。
 柳生の史跡観光を終えた時間が16時50分だった。笠置駅発17:56の列車に乗ることに決めて早足で休まずに打滝川沿いの道を笠置駅へ向かって下った。17:45に全員無事笠置駅に着いた。暑い季節なので水分補給には充分気をつけて歩いた。

自然歩道 (月ヶ瀬口駅～高山ダム～笠置寺～柳生～笠置駅)



茶畑と山
10:28

グリーンバル
南山城
10:45



高山ダム
10:57

恋志谷神社
11:55



布目川甌穴群
13:31

木津川河畔
を歩く
13:49



笠置寺行場巡り
14:53

貝吹岩にて
15:08



旧柳生家老屋敷
16:11

一刀石
16:37



名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：月ヶ瀬口駅～笠置寺～柳生～笠置駅）

参考資料、参考資料、HP / 他より

高山ダム：1969年(昭和43)木津川支流の名張川に造られた多目的ダム。

形式はアーチ重力式コンクリートダム、二つの形式を兼ねた全国で十例程しかない珍しいダム。高さ67m、長さ208.7m、大阪ドーム47杯分の貯水量

* (アーチ式)：重量式より少量のコンクリートでつくれるが、ダムの両端に水圧かかるので岩盤がしっかりした所でないとつukれない。

* (重力式)：ダム自体のコンクリートの重さで水を支える、最も多く見られる。

ダム名は旧村名の高山から名付けられた。

現在の南山城村は高山村と大河原村が昭和30年に合併して出来たもの。

ダム湖は月ヶ瀬湖という、上流は月ヶ瀬梅渓で、一万本の梅林がある。

高山大橋：高山ダム湖(月ヶ瀬湖)に架かる吊橋、1967年(昭和42)架橋

夢弦峡：伊賀川の出口、名張川と合流して木津川となる付近。

平安時代、大和の国司、弦之丞と名張の郡司、夢姫が熱烈な恋に落ちたが、親に反対され、二人は永遠の愛を誓ってこの谷に身を投げたという悲しい言い伝えがある。二人の名をつけて夢弦峡といい、静寂な景勝の地名となっている。夢弦峡温泉、鶴乃家がある。(単純温泉18)

弓ヶ淵：夢弦峡のすぐ下流、木津川が緩やかに流れ大きい弓状の淵になっている

昔この地に大和守道臣という人がいた、名張の大領(律令制で郡司の長官)の女を奪い島ヶ原の伊賀田に隠れ住んだ、やがて一人の童子が生まれ、このことが名張の大領に知れ、討手を差し向けられ奮戦するが敗れ、弓を引っ下げ崖上より深淵に飛び降り自害、妻も続いて身を投げて死んだ。以後、その亡霊が時を決めず島ヶ原の観音堂に参詣しているという。この話は天和2年(1682)に菊岡如幻きくおかによげんが書いた伊賀の民話「茅栗草子しばくりそうし」のなかにある。如幻の生まれは伊賀上野で、出自は源頼政の流れをくみ島ヶ原、菊岡村より起きた。荒木又右衛門仇討ち実録など伊賀に関する著書が多くある。

その他、弓ヶ淵で鷹狩中の柳生十兵衛が44歳の春、血を吐き倒れ、最後を遂げた処とされている。毒殺説、女遊びによる病気、とか諸説多い。

大河原発電所：京都の産業遺産。1919年(大正8)建設スイスEW製立軸流渦巻フランシス水車3000kwで山城、京都方面に送電されていた。

取水堰堤は長さ109.4m、高さ14.9mの石積、堰堤、取水口、発電所システ

ムは当時の姿で残されている。

恋路橋 : 潜没橋(沈下橋)この橋を歩いて渡って恋志谷神社にお参りすると恋愛成就、子授け等にも霊験あらたな、恋志谷神社の姫神が願いを叶えて下さるとか。

恋志谷神社 : 元弘の変(1331年)に敗れた後醍醐天皇は、隠岐に流された。

天皇の寵妃は伊勢での病氣療養が回復したので、天皇のいる笠置へ訪れようと来たが、すでに天皇は笠置を去ってしまったことを知り、「恋しい、恋しい」と、悲しみで、病が再発。自分の病気を嘆き、天皇の身上を憂慕し、後世の人々の病苦厄難を除き、守り神になりたいと口碑(口伝)に遺して自害したのがこの地だそう。憐れんだ村人が姫神として祀ったのが恋志谷神社の始まりといわれる

現在の恋志谷神社は柳生宗矩の子宗冬が、改築した天満宮に合祀されたという、また天満宮社の石鳥居は宗冬が寄進したことが確認出来る銘がある。一番左端の灯籠は南山城村最古で、天文14年(1545)に刻まれた室町様式を残す。ほかに樹齢数百年、幹径6mのクスノキがある

十一面観音磨崖仏 : 道ばたに有り見逃さないよう

飛鳥路集落 : (江戸末期、明和の農民一揆の庄屋?)庄七翁終焉地の碑がある静かな里。

天照御門神社 : 祭神 ; 天照御門神、創建年不明、貞観元年(859)従五位授かる。旧村社。

布目川の勧請縄 : 飛鳥路地区集落内に不浄のものが入らないようにした注連縄

災いの神を追い出し、神聖な場所と不浄な外界を区別し、病根等の悪霊が集めるのを、止める役目。男女の性器を藁で形作ったものが付けられている。大和の飛鳥川沿いにある栢森地区の勧請縄はよく知られている

布目川甌穴群 : 河底の窪みに渦巻流が生じ、中に落ちたこんだ小石が回転して河床を深く削って出来た珍しい穴、小さなもので数十万年大きなものは数百万年もかかると推定されている。吉野(川)の宮滝には更に大きなものがある。

布目川発電所 : 明治41年(1908)出力1100kw、落差111.05m、自流・水路式

七曲がり : 国道163号線笠置トンネルの入口から出口辺りの木津川に六つの瀬が連続して有りカーヌー愛好者のメッカとなっている。(旧道は川に沿って大きくカーブしている)

笠置山 : 後醍醐天皇の行在所跡のある頂上は 288m、三角点(324.2m)は飛鳥路分岐から 1 ほどの先にある。(笠置ゴルフ場の近く)

笠置の名の由来 : 671 年天智天皇の皇子、大友皇子が狩を楽しんでいた時、鹿が現れ追いかけているうち、馬ごと崖から落ちそうになり、進退窮まった皇子は、山の神に祈願「助けてくだされば岩壁に弥勒菩薩を彫る」と願い窮地を脱する。その場所を忘れないため笠を置いて帰る、翌日約束どおり仏を彫ろうと、山に訪れ笠を探していると、白鷺が現れその場所まで導いた。皇子は作業に取り掛かるが、岩が余りにも高大でとても力が及びそうでない、困った大友皇子の前に天人が舞い降り見る見る弥勒磨崖仏を完成させたという。(笠置寺縁起)

元弘の変の兵火で傍の礼拝堂が焼けその高熱で弥勒磨崖仏も焼失し残影となる。皇子が笠を置いた石を笠置石、山を鹿鷺山と称しそれが今日の「かさぎ」の由来となる

*弥勒菩薩大磨崖仏 : 15.6m幅 15m (1300 年ほど前の線刻で、彩色された時代もあった)

*虚空蔵菩薩磨崖仏 : 12m幅 7m 如意輪観音坐像であるとも、周りに建物が無かったので火災から免れた(奈良時代か、平安か年代は確定してない)

笠置寺正月堂 : 東大寺二月堂のお水取りの起源になったお堂で床半分は懸崖造りの上にある。寺の本堂で元礼拝堂の跡に再建された。実忠和尚が第一回のお水取りを勤められた正月堂は現在の大師堂の場所とか。

笠置寺千手窟 : 683 年には役行者も千手窟を訪れ修行されたとある(笠置寺縁起)

栗栖神社 : (JR 笠置駅前、旧村社) 本殿祭神 : 菅原道真 末社 : 十二社ある

昌泰年間(898~901)醍醐天皇が笠置に行幸の折、右大臣菅原道真も従って来たときに、その風光を愛でて、ここへ居を定めたいと願い出るがその後して政治失脚させられた道真は、大宰府に流在となる。筑紫に於いて自らの姿を彫刻し、延喜 2 年(902)この地の祖先、筒井喜久治に贈られ、密かに塚を築き、仮殿を設けて敬われていたが、承平元年(930)今の社地に鎮座し、大宰府より天満天神宮の社号を受けている。(時間が有り、此処まできたら参拝も)

阿対石仏 : 鎌倉から室町期にかけての磨崖仏。流行病に靈験ある阿弥陀如来と、豆腐を供えると子が授かるという地藏菩薩の二体からなる。子供が出来た時は、一千個の数珠を作りお礼参りをする。

十兵衛杉：柳生十兵衛が寛永3年諸国漫遊に旅立つ時、先祖の墓に参り植えたとされる。
樹齢約 350 年 1972 年落雷によって枯れる。

家老屋敷：柳生藩家老小山田主鈴の屋敷、文政9年(1826)国家老として藩財政の立て直しをした人。1964年山岡莊八が買い取り、ここで大河ドラマ「春の坂道(柳生宗矩)」の原作の構想を練ったといわれる。1981年遺志により奈良市に寄贈される。

陣屋跡：延享4年(1747)に全焼。今は史跡公園になっている。

正木坂道場：昭和40年に、先代住職の橋本定芳師が30年の歳月をかけて柳生友矩^{ともりのり}の屋敷跡に再興された。屋根や柱は裁判所として使われていた元興福寺一乗院の解体部材を使用、壁や床は新築、正面入り口は京都所司代の玄関である。友矩は十兵衛の異母弟で美男子、家光の寵愛を受け、27歳の死は謎とされる。宮本武蔵が訪れたという当時の正木坂道場は市営駐車場辺りであるという。

芳徳禅寺：柳生宗矩^{むねのり}が父宗厳^{むねよし}(石舟斎)供養のため寛永15年(1638)建立。柳生家代々の菩提所である。もと柳生家の居城の地といわれ、山門は城門であった。

柳生家墓地：柳生宗矩の墓石を中央に、石舟斎宗厳、十兵衛三厳^{みつよし}、飛騨守宗冬、など80数基の歴代墓石が整然と並んでいる。

天乃石立神社：天の岩戸が宙に舞い、落下したとされる巨岩をご神体とする。

一刀石：石舟斎(柳生宗厳)が修行中、戸岩谷にわけ入り天狗と試合、天狗を一刀のもとに斬ったと思ったが、その場にあった巨石(7畝四方)を二つに割っていた。後世これを一刀石と呼ぶようになった。岩の窪みは天狗の足跡といわれる。

古城山：元弘元年(1331)後醍醐天皇側に付いて、柳生永珍が笠置の南部、古城山に立て籠もり天皇方の唯一の糧道であった柳生方面を守っていた。同年8月南麓の数珠口坂で13名が戦死。堀跡もあり剣塚がある。また後年には天文13年(1544)筒井順昭の討伐を受け落とされる。
(四等三角点、312.48m点名：柳生下)